



平成 27 年特別展のご案内

平成 27 年の特別展は、前号でご案内したとおり、『戦後復興への道のり—吉田茂・鳩山一郎—特別展』である。

今号では各コーナーの概要を展示順に紹介する。

まず、憲政史シアターは、吉田・鳩山 2 人を中心に戦前から戦後にかけての政治の歩みを 15 分程度で紹介する。時代背景や政治の流れを観ることで、展示資料への理解を深めることができる。

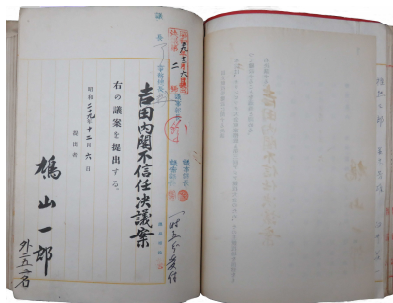
次にメインとなる文書展示「戦後復興への道のり」では、①「それぞれの道」1939 年（昭和 14）～1945 年（昭和 20）、②「敗戦から立ち上がって」1945 年（昭和 20）～1952 年（昭和 27）、③「もはや戦後ではない」1952 年（昭和 27）～1960 年（昭和 35）と時代を 3 つに分け、

戦後政治に大きな足跡を残した 2 人の歩みを中心に据えた展示構成となっている。

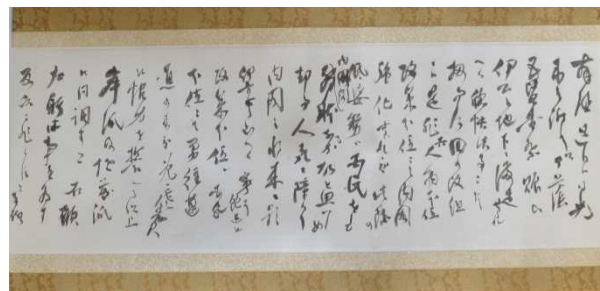
壁面展示「宰相の風貌」では、吉田・鳩山の遺品や遺墨等を展示し、その人物像を浮き彫りにする。また、初めての試みとなる第 2 会場を設けて、吉田茂の愛車を展示する。

パネル展示「素顔の吉田茂・鳩山一郎」では、系譜やエピソード、写真等を交えながら 2 人の横顔を素描する。

特設展示「それぞれの 8 月 15 日」では、戦後 70 年に当たって当時の人々がどのように終戦を迎えたかを、玉音放送など関係資料等により紹介する。さらに「激動昭和の群像—吉田・鳩山に連なる人々—」では、吉田・鳩山とともに活躍した人物を略歴・遺墨等により紹介する。



吉田内閣不信任決議案（衆議院議事部所蔵）



吉田茂書状 池田勇人宛（憲政記念館所蔵）

音声アーカイブズは、憲政記念館に保管されている音源のうち、吉田・鳩山の肉声を聴くことができるブースである。

展示する資料は約 170 点にのぼる。特別展まで 2 ヶ月を切り準備に余念がない。皆様のご来館を心よりお待ち申し上げている。

開催期間	11月4日（水）～11月27日（金）の24日間 ※11月4日（水）は13:00からの入館
開館時間	9:30～17:00 （入館は 16:30 まで）
備 考	期間中無休 入館無料

館内・庭園散歩



〔御観覧される皇太子殿下と美智子妃殿下(当時)〕

憲政記念館の前身である尾崎記念会館は、憲政の神様と称された尾崎行雄を顕彰し、その思想を普及するため、寄付を募って有志により 1960 年（昭和 35）2 月に設立、衆議院に寄贈された。しかし、同館の設計は、講堂・会議室において講演や各種会合を行うことに主眼を置いたものであり、憲政史料を展示するものではなかった。

翌 61 年 1 月、議会開設 70 周年記念「議会政治展示会」（国立国会図書館主催）が同館で開催された際、会議室とロビーを仮設の展示会場として使用したところ、いかにも間に合わせの感が強く、博物館施設としての展示機能が不十分な施設であることが明らかとなった。

こうした経緯を踏まえ、新館建設の構想が具体化し、議会開設 80 周年を迎える記念に「憲政記念館」として設立されることとなった。1971 年（昭和 46）11 月、内部に展示室・収蔵庫等を備えた近代的な展示館が完工した。翌 72 年 3 月 21 日、憲政記念館の開館式が行われ、「開館記念特別展」がスタートした。これが、特別展の記念すべき第 1 回であった。翌 22 日、皇太子殿下と美智子妃殿下（当時）をお迎えして特別展を御観覧いただいた。



〔キンモクセイ〕

憲政記念館が管理する国会前庭（北庭及び南庭）では、秋になるとキンモクセイがオレンジ色の小さな花をたくさん咲かせ、甘い香りを放つ。そして、しばし憲政の庭は芳香漂う癒しのエリアとなる。

憲政の十傑 —伊藤博文—



[写真提供 伊藤公資料館]

【略歴】

1841 年（天保 12）、周防国農民林十蔵の長男として出生。父が萩藩下級藩士の養子となり、以降伊藤姓を名乗る。吉田松陰に師事し、松下村塾に学ぶ。木戸孝允の知遇を得て、尊王攘夷運動、武力倒幕運動に参加。1871 年（明治 4）、岩倉使節団に特命全権副使として参加、大久保利通の信頼を得る。大久保の死後、参議兼内務卿となり、政府の中心的存在となった。1882 年、憲法調査のため渡欧、帰国後は華族令制定等統治機構を整備し、1885 年、内閣制度を創設、初代首相となる。以降、大日本帝国憲法制定、不平等条約改正等に尽力、明治天皇の信頼を得て「元老」となり、4 次にならび内閣を組織したほか、枢密院議長、貴族院議長、韓国統監等要職を歴任、長らく国家の指導的立場にあった。1909 年、ハルビン駅頭において暗殺される。

ちなみに、幼名は利助。後に俊輔とし、更に春輔と改名した。あだ名が「しゅんぽ」であったため、号は「春畝」。

【憲政において果たした功績】

明治憲法を制定したのは伊藤であるといっても過言ではない。とすると明治憲法をいかに評価するかによって、伊藤が憲政に貢献したか否かが判断できるであろう。戦後、太平洋戦争の原因として明治憲法の「天皇主権」が挙げられ、それ

を否定した形で日本国憲法が制定されたため、伊藤を「君主専制」主義者と評する論者が現れた。また、伊藤が議会開設当初、超然主義に基づいた立憲運用を行っていたのは事実である。しかしながら、議会についての憲法条文をみると、予算、法律はその「協賛」がなければ成立しないため、天皇の行為を制約し得る内容となっており、議会は決して飾り物になっていない。渡欧の際、「憲法は法文でなく精神であり、国情に合ったものにすべき」との教えを受けた伊藤は、日本は伝統的に天皇専制が行われていないため、立憲君主制が国情に即していると考えた。憲法草案枢密院会議筆記をみると枢密院議長伊藤は、立憲政治の最も重要な意義は、君権の制限と民権の保護にあると繰り返し力説している。明治憲法は、十分に今日の議会政治の礎となっていると評価できるであろう。

【エピソード】

伊藤が、生涯を通じて最も長く親密に交際したのは井上馨であった。晩年、井上が病気を悪化させ危篤に陥ると、伊藤は、自らの手でアイスクリームを食べさせるなど十数日にわたって献身的に看病した。その後、井上は奇跡的に回復し、翌年、快気祝いの園遊会が開かれた。その席で、伊藤は長年にわたる井上との友情を回想して回復した喜びを語りはじめたが、伊藤が言葉をつまらせると、その場は水を打ったように静まりかえった。一同が見たのは、涙が頬を伝ってむせび泣く伊藤の姿であった。

所蔵資料紹介 ー伊藤博文ー

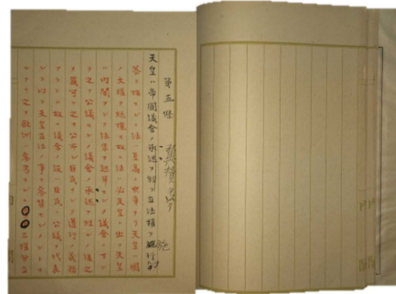
【錦絵「皇国高官鑑」石斎国保】



1885 年（明治 18）12 月 22 日、内閣制度が発足し、伊藤が初代首相に就任した。これまでの太政官制から、各大臣が責任を持って天皇を輔弼し、宮中、府中の別が明確になる等憲法制定を見据えた近代的な行政組織となった。伊藤とともに旧参議だった山県有朋（内相）や井上馨（外相）らが要職を占めた。1886 年には帝国大学令、翌年には官吏任用法が制定され、内閣を支える官僚組織が整備された。これは、第 1 次伊藤内閣の閣僚を描いたものである。

【伊藤博文書込憲法草案（複製）】

※常設展示中



1888 年（明治 21）4 月、伊藤らは憲法草案を上奏、新たに設置された枢密院で審議されることとなった。伊藤は枢密院議長となり、明治天皇臨席のもと会議を主宰した。枢密院での審議は 1889 年 1 月に終了し、同年 2 月 11 日、大日本帝国憲法が発布された。これは、伊藤が枢密院会議で説明するための憲法草案最終原稿である。伊藤の手持ち資料のため、各条項の解説や修正部分の書込みがある。

< 編集後記 >

秋の気配が日ごとに深まりゆく頃、憲政記念館にとっては、一年で最も大切な時季を迎えました。

戦後70年に当たる今年の特別展は、一面でご案内しておりますように、日本の戦後復興に大きく貢献した2人の政治家、吉田茂と鳩山一郎をテーマの中心に選びました。ライバル関係にあった2人。傍らの歴史辞典を紐解いてみると、直情径行の吉田に対して鳩山は明るく開放的な人柄とありました。

本展をご覧下さる皆様が、思い思いの吉田・鳩山像を心に結んでいただければ幸いです。

（吉岡）

【発行人】 清水 敦

【編集責任者】 高橋耕一

【編集長】 吉岡正廣

【印刷・発行】 衆議院事務局 憲政記念館

〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-1-1

TEL : 03-3581-1651 FAX : 03-3581-7962